

こうした事例についての記述に多く共通して見られる特徴として、以下の6点が挙げられた。

- ①早期から我が子を預けることへの親自身の不安やつらさ
- ②仕事の同僚など周囲への気兼ね
- ③入所後の子どもの多様な経験とそれを通じての育ちへの喜び
- ④保育者により親自身が支えられたこと
- ⑤当初の揺れ動く思いが実際に保育を経験した後で肯定的な気持ちに変化したこと
- ⑥保育者の親・子それぞれに対する対応のあり方がいかに重要であったか

考察と今後の課題

以上のような子どもの保育経験に関する保護者の記述内容に見られる特徴や事例から、保護者は、園における子どもの多様な側面の育ちへの期待を持つとともに、早期から保育を受けさせることによって親の愛情が十分かけられないのではないかと不安を抱いていること、「子どもは母親の手で、特に3歳までは」という「三歳児神話」の影響を受け、周囲を気にしている場合があることなどが示唆された。

さらに、保育者の子どもと保護者への暖かい関わりが長年にわたって心に残っていることが示されたことなどから、子どもを預けることについて様々な思いに揺れ動く保護者を支える存在としての保育者の役割についても、その意義が提示されたと言える。保護者の自由記述の内容から、保育者の感性や応答性を中心とする保育の質のあり方が、今後の大きな課題であることが改めて示されたといえるだろう。

3 0歳からの保育が子どもの発達に及ぼす影響に関する研究

－聞き取り調査－

調査の方法

平成14年度に実施した質問紙調査の補足的な資料とし、質問紙調査では聞くことができなかった事項を事例研究的にとらえるために実施した。

(1) 調査の対象

平成14年実施の質問紙調査の協力者のうち、0歳または1歳から保育を受けた経験を持つ中学生及び高校生とその保護者で協力の承諾を得られた親子を対象とした。

(2) 調査の方法

質問の内容及び聞き方を予め用意しておき、被験者には自由に語ってもらうが、決められた手順により聞き取りをする半構造化面接を調査員2名が同席して実施した。保護者と子どもはそれぞれ約1時間の面接時間をとり、個別に面接をした。

(3) 調査の内容

<子ども調査>

1. (1)自分の通った保育園について、現在の思いと過去に思いに変化があった場合は、その理由。(2)自分が0歳(または1歳)から保育を受けたことについて、現在の思いと過去に変化があった場合はその理由。

2. 保育の影響(1)親子が離れて過ごすことについて、保育園に行っていた頃の思いと今の思い。(寂しさの理由、対処、対処の結果、寂しくなかった理由等)、(3)親子分離体験の現在への影響の有無、(4)影響がある場合の内容

保育の影響(2)保育園からの影響、保育の影響(3)保育者からの影響

<保護者調査>

1. (1)子どもが通った保育園について、今の思い、現在の思い、入園前、入園直後、卒園したころの思い、変化があった場合の理由、自分自

身の幼少期の経験との関連

(2)子どもが乳幼児期から保育を受けるということについて、現在の思い、入園前、入園直後、卒園したころの思い、変化があった場合の理由

2. 保育の影響(1)親子が離れて過ごすことについて、保育園に行っていた頃の思いと今の思い、親子が離れて過ごしたことの現在への影響、影響がある場合の内容

保育の影響(2)保護者への直接的影響

保育の影響(3)保育を受けた子どもを通じての保護者への間接的影響

<子ども・保護者共通>

平成14年に行った<子ども調査>の結果についての感想及び現在の考え

(1)仕事と子育てについての認知

①性役割観 ②三歳児神話の肯定

(2)保育についての一般的意識

①低年齢児保育の肯定 ②主に3歳以降の保育所保育の肯定

聞き取り調査記録

A：子ども（女子・高校1年生、次女、保育経験：1歳3ヶ月より）、保護者（母親、46歳、1歳3ヶ月まで育休、保育園経験あり）

<A子ども>

1. (1)自分の通った保育園について、今どう思っているか。

先生は優しく、自由で良いところだった。

小学校の時はあまり考えていなかった。

(2)乳幼児期から保育を受けたことについてどう思っているか。

小さい頃から行って良かったと思う。小さい時からまわりの子達と一緒にいろんな事をしてきて、家の中だけでなく、他の所でいろんな事ができたから、小さい頃から行って良かった。

2. 保育の影響について

(1)親子が離れて過ごすことについて、保育園に行っていた頃は どう思っていたか。

お母さんという時間が短かったり、保育園に遅くまでいて皆帰ってしまったりすると寂しい

かなと思った。

(どうして寂しくなかったのか?)寂しい時に先生と一緒にいてくれた。(お母さんの迎えが遅かった時は、先生が)ずっと一緒にいてくれたり、遊んでくれたり、本を読んでもらったりした。先生達がいたから(悲しかったり淋しかったりしたことは)なかった。

(現在の自分に影響を与えたと思うか?)

仕事は、お母さんにも他の人をみたりとか、責任があるから、今はしょうがないかなと思う。

ちょっと大きくなってからは(お母さんは今大事なお仕事をしてるからと)思っていたが、前はそれでも寂しかったような気がする。やはり早く迎えに来て欲しいとは思っていた。

(2)保育園からの影響、思い出

(園の中で楽しかった活動は?)年中の時のお泊まり保育。そうめん流しをみんなでやったこと。

(中学校での)職場体験をするまではあまり保育士のことを考えたことがなかったが、小さい子と一緒にいて、保育士になりたいかなあと感じた。子どもが好きだったから、幼稚園でも保育園でもどちらでも良かったと思った。

(3)保育者の印象

みんな優しく、年長ぐらいの時の先生。覚えているのが年長ぐらいからで。(運動会で)分からないことをていねいに教えてくれた。

(保育士になることを希望しているが)、やはり、自分が寂しい時に先生達にいてもらって寂しくないとか(あったので)、だから同じようにしてあげたいと(思っている)。

生まれつきのものがあって、小さい時はわからなかったが、いろいろ友達に言われたりして、多分泣いたりしていた時に先生になぐさめてもらったりした。それが多分一番(印象に残っていること)です。

<子ども調査の結果について>

仕事と子育てについての認知(①②の結果)

どちらかというところ(柔軟な考え)。自分だったらたぶんこっちの考え。

(幼稚園の人は) 帰ったら親がいるとか、寂しい思いをあまりしてないからこっち(伝統的な性役割感)。

(質問: もしも我慢できない程寂しかったらどうだろう。) そうしたらこっち(伝統的な性役割感)。

保育についての一般的意識(③④の結果)

小さい時から保育園に通わせるのが良いと思う。

(幼稚園と保育園の違いをどう思うか?) 幼稚園は時間になったらみんな帰る。保育園はお母さん達が来るまで待っている。幼稚園に通っていた子は幼稚園が良いという。

(お母さんの場合は仕事を続けながら子育てをしたが、自分は?) そうしたいと思う。(子どもも) 早くから保育園に預けたい。

<A保護者>

1. (1) お子さんが通った保育園について、今どう思っているか。

本当に助かった。保育園に育ててもらったと思っている。その一言。

入園前: 入園前は、まわりから厳しいと聞いていたが、自分は全く不安はなかった。お姉ちゃんが中途入園だったが、その面接もした。しっかりちゃんとしたところだなというイメージで。説明も基本理念についてしっかり言ってもらった。

入園直後: 入園前と入園直後で考えが変わったことはない。もう二番目だから安心してた。

卒園した頃: ありがたいという想いが強くなった。人によっては保育園は厳しいという人もいるが、私は厳しさをむしろありがたいとしか思ってなかった。

親自身の保育経験や親にどのように育てられたかということが関連しているか?

(自分は) 保育園がとっても楽しかった。だから子どもには「保育園は楽しい所よ」と言った。子どもが保育園に行くのは自然だと思った。

(2) 乳幼児期からの保育について、今どう思っているか。

経済的理由が大きかった。職場は福利厚生が整っており、最大3年までは育休が取れたが、休んでいる間はもちろん無給、復職した時に休んでいた間の社会保険料を取られるとも聞いていた。長く休むと技術の発展が早いのでついていけなくなるという不安もあった。

一人目の時は0歳から保育園にお願いして、二人目の時は二人いるので1年3ヶ月は育休をとった。今思えば人生の中の3年間だから、ゆとりがあれば、しっかり育休をとってあげたかったかなと思うが、だからといって悪かったとは思っていない。余裕があれば3年最大(育休を)とって、しっかり子育てしたかった。

卒園する頃になってこういう子育ても良いと思って、「早くから預けたから・・・」ということはないと自信を持って思っていた。

2. 保育の影響について

(1) 親子が離れて過ごすことについて、子どもが保育園に通っていた頃、親としてどう思っていたか。

かわいそうな思いをさせている。夜勤のある仕事をしていなかったらこういう淋しい思いはさせないだろう。普通の朝から夕方までの仕事だったら、夜いないこともない。迎えに行った時、子どもが一人、二人の時もあった。その時はごめんねという気持ちだったが、見ると先生(園長先生や1、2人の先生)と楽しそうにしている。それで救われた。いつもごめんねと思っているが、子どもがニコニコして先生と遊んでいると、それも間違いじゃなかった、悪くないと思った。

いつも「ごめんね」という気持ちは、「ごめんね遅くなって」などいつも子どもに伝えていた。自分の仕事の内容をわかるようになってからは(3、4歳)、「今日は急にお仕事が忙しくなってね」などと伝えていた。

言葉で伝える以外に、ごめんねといって抱きしめてから、手をつないで車まで行っていた。保育を受けることによって親子が離れて過ごし

たことは、子どもの発達に影響を与えたと思うか？

少なくとも悪い方には影響していない。母親はがんばって働いていると思っていてくれるのかなと思う。その中で育ててくれたと言ってくれる。寂しかったのよということもあまり言わなかった。プラスに受け止めているだろう。人としての育ちというか、母親が働き、長い時間の保育を受けたことは、子どもの育ちにはプラスの影響が大きいと思う。

(マイナスの要素をあえてあげるなら?) 早くから保育園で長い時間保育を受けたこと。気分が悪い時もあっただろうから、そういう時はもしかしたら子どもにとってはきつかったかもしれない。

(2) 保育園からの直接的影響 (あなた自身が保育園から受けた影響)

いっぱい教えられている。一人で家で少しの友だちの中で育ったよりずっと、私自身が育てられた。

例えば、こんなこともできないなど、ひとりだったら悩んでいたかもしれないが、母親同士で話したり、先生に話を聞いて、悩むことはないんだ、ひとりひとり違うんだと。

(3) 保育園からの間接的影響 (保育を受けている子どもからの影響)

最初は、一人一人のマークがあって、持ち物すべてにその印を付けるというのがあった。難しい形を選んでしまっていて、楽しみでもあったがそれが大変だった。2人目の時は、簡単な形を選んだ。子どもが喜ぶので励みにはなる。子どもがどれが好きか選んだりして。

子どもが喜んでいるので、それを感じながらやっていた。心が通じ合うような親子だった。保育園に入らず、家庭で育てていたら、子どもの感情がというか、自分一人では育てられなかったと思う。

<子ども調査の結果について>

仕事と子育てについての認知 (①②の結果)

その通りに思っている。

母親だけでの保育ではなく、こんなふうにつつのも良いと今は思っている。一人で育てたらとても大変。

保育についての一般的意識 (③④の結果)

幼稚園 (専業主婦) の人は通ったことがないから、イメージ的に預けられてかわいそうに思うのだろう。自分たちはそうは思っていない。子ども達を見ていると全くマイナスイメージはない。のびのびとしていた。私は良かったからいいが、保育園によってはしっかりみてくれない保育園もあり、違う結果が出るかもしれない。

B : 子ども (男子・高校2年生、長男、保育経験 : 1歳8ヶ月より)、保護者 (母親、40歳、産休以外就労継続、保育園経験あり)

< B子ども >

1. (1) 自分の通った保育園について、今どう思っているか。

何も考えていないが、覚えてはいる。

給食を食べるのが一人遅かった。今も食べるのが遅い。まわりの友だちはせかす、先生は残さないように、全部好き嫌いなく食べるようにと言う。自分は半泣き状態だった。

昼寝が嫌だったので、昼寝の時間にこっそり隠れて本を読んでいた。(先生に) 気づかれた思い出はない。ただ昼寝はしなくなかった。

小・中の頃は保育園について特に何も感じてなかった。小さい頃から保育園に対するイメージとか考えが変わってきたことはない。

(2) 乳幼児期から保育を受けたことについてどう思っているか。

特に変わっていることとは思わない。いいんじゃないかと思う。親も忙しかったんだから、それで手間が省けて良かったと思う。自分としては0歳の時のことは覚えていないし、別に何も思わない。

(記憶があるのは) 何歳かは分からないが、友だちと遊んだのは覚えている。覚えている頃にはもう保育園へ行っていて、それが当たり前にな

っていた。

小学校になってはじめて、幼稚園というものを知った。何をするとところかのかなあと興味を持った。幼稚園がどういうところか知った後も、保育園は保育園で良かったと思った。

中学の時は何も感じなかった。

2. 保育の影響について

(1) 親子が離れて過ごすことについて、保育園に行っていた頃は どう思っていたか。

特に何も感じなかった。保育園に行っている間はそれなりに楽しかった。友だちと遊んだり、先生と過ごしたことが楽しかった。

(今はどう思うか。) 家に帰ってから親と一緒に過ごす時間があるので、小さい時でも昼間に友達、先生、外の人とかかわりを持つのはいいと思う。

寂しくはなかった。友達は皆、寂しいとは思っていなかったと思う。友達と遊ぶのが楽しくて、寂しいという感情はなかった。(迎えが)遅くなることはあったが、寂しいとか不安だとは思わなかった。妹が一緒だったので、妹の面倒を見ていた。妹が保育園にいたということは、楽しかったこととか寂しくなかったというのとは関係はない。ただ面倒をみるだけ。

(現在の自分への影響については?) 特に自覚はない。

(2) 保育園からの影響、思い出

意識の中にはない。階段の登りおりで、小さいとき、右足で一段登ったらその段に左足もそろえていたが、そのことを先生に指摘された。今もそれを気にすることがある。思い出して、なんでいけないんだろうと思う。小さい時だからそういうことも難しいことだと思う。指摘された当時も、少し納得がいかなかった。

(3) 保育者の印象

怖かった。ブランコに乗ってて、先生が押ししてくれる。「もう、とめて」と言っているのに、もっと勢いをつける。今で考えると虐待じゃないかと思う。

他には先生に関する思い出はない。印象に残

っていない。一人の先生が怖いと思うと、他の先生も怖いと感じた。

<子ども調査の結果について>

仕事と子育てについての認知 (①②の結果)

0歳から保育園に行っていたと思う。自分ももし幼稚園に行っていたら、伝統的な考え方をするのではないかと思う。今は柔軟な考えを持っていると思う。女性が仕事と育児を両立させていくのはいいと思う。

母親が子どもを保育園に預けて働いていたことには賛成する。

子育てを自分(男性)がやるのもいいと思う。結婚相手の女性も、子どもができて仕事も続けていいと思う。女性は、自分の思ったとおりにできれば、それがいいと思う。

高校の社会科の男性教員が育児休暇をとった。それが新しくいいなと感じた。その先生は周りの育児をするお母さん方から変な目で見られたと言っていた。自分もとってみようかと思う。

保育についての一般的意識 (③④の結果)

知らず知らずの間に、小さい頃の自分達は親の影響を受けていたんだと思う。親が働いていたから自分が親になった時にも働いていていいんだと感じる。この考え方については自分も0歳からのグループにあてはまると思う。自分の子どもも0歳、1歳から保育園に通わせてもいいと思う。

自分が保育園が楽しい、淋しくないと思ったことが、子どもが小さいうちから保育園に通うのを肯定するのにつながっていると思う。

幼稚園に行った人は、自分たちが小さい時から保育を受けていないから、不安なんだと思う。0歳から自分で見ていた方が安心感がある。人に預けて見てもらうより、自分で育児する方が子どものためになるというような感じがあるのではないか。

<B 保護者>

1. (1)お子さんが通った保育園について、今どう思っているか。

<Q保育園（3歳未満まで）>

別に思いはない。ありがたかった。そのころの担任とは今も交流がある。良かったかなとは思ふ。どうしていたかは昼間見ていなかったのかわからないが、迎えに行った時など悪い印象はなかった。昼間給食があるのも助かった。入園直後から安心感があった。不安になる材料はなかった。

子どもは今になって「保育園に行きたかったわけじゃない。好きで行っていたわけじゃない」と言う。それはこの保育園だからとか、この先生がいやという思いではなく、ただ行くのがいやというだけ。保育園に行くのを嫌がったことはない。1、2度抱きついて、行かないとぐずった時もある。先生からは、「心配だったらこっそりに見に来ればいい。お母さんが帰ったらケロッとしているのを確認したければ」と言われていた。最初から先生を信頼していた。

<X保育園（3歳児以降）>

先生によくしてもらった。特にトラブルもなかった。良かったと思っている。

親自身の保育経験や親にどのように育てられたかということに関連しているか？

自分自身は幼稚園に行ったが、そのことと子どもを保育園に入れたこととは関連はなかった。

自分のことはあまり記憶にない。家が近くだったし、商売をしていたのですぐに帰っていた。当時は居残りはあって、居残りがうらやましかった。一度家に帰ってからまた幼稚園に居残りを見に戻った。午後のおやつがうらやましかった。近所の子と一緒に、悪いイメージ、さみしい、こわいというイメージもない。

子どもを保育園に預けて、「淋しかったかな」とは思うが、朝、晩は十分にやってたので後悔はしていない。家で一日こもっている親子がいると、保育園もいいよと勧めている。友達が

出来ないと言っているより入れてみたらいいのにと。

(2)乳幼児期からの保育について、今どう思っているか。

どっちにしても4才になったら幼稚園なり行くようになる。忙しくて、家の中においてほおっておき、目が届かないよりは良いと思った。親子して友だちも増えるし、夜や休みの日は一緒に遊ぼうということにもなる。罪悪感もないし、かわいそうなことをしているという意識はない。今もそう思う。

2. 保育の影響について

(1)親子が離れて過ごすことについて、子どもが保育園に通っていた頃、親としてどう思っていたか。保育を受けることによって親子が離れて過ごしたことは、子どもの発達に影響を与えたと思うか？

ないと思う。幼稚園ではないので、名前ぐらいは書けるようにするが、勉強が目的ではなく、安全に預かるのが一番の目的と言われた。勉強させなければ幼稚園の方がいいというのも分かってたから、べつに何も望んではいなかった。行事、お誕生会などもあったし、先生との会話も送り迎えの時にあったし、何も心配はしていなかった。

途中で納得いかないことがあり、1、2度先生に尋ねたことがある。鯉のぼりを横に並べたり、ひな人形の段をとって、並列に並べるということがあった。人間は皆平等だから、順位はつけない、段々にはしないということだった。順に並べるのは差別でも区別でもない。父母、祖父母と、自分が敬う順はあり、子どもが大きくなって、父母、祖父母を大事にするのはあたりまえ。平等ということと、子どもも親も年寄りも一緒というのとは違う。そういう風に子どもに教えていいのか。おかしいと思って先生に尋ねたが、保育指針が変わったので仕方がないと言われた。

自分がおかしいと思うことは自分で訂正して

教えればよいと思っていた。賢く普通に育っていれば自分で何が正しいのか、自分の意志ははっきりすると思うので、いいかなと思っていた。

(2) 保育園からの直接的影響（あなた自身が保育園から受けた影響）

特にはないと思う。「ひまがあったら抱っこしてあげて」と言われていた。最初から紙おむつを使っていた。洗って干してたたむ時間があれば、抱っこしてテレビを見ている方がいい。家に帰ったら、くっついていて。保育園の先生も節約できるところはして、できるだけ一緒にいてあげてと言っていた。

上二人の時は居残りさせていた。土曜も弁当とおやつを持って行かせていた。3人目は祖父母も年を取り仕事も減らしたので、子が行きたくない時は休ませていた。先生も「遠慮せず、休める時は休ませたらいい」と言ってくれた。一緒にいることが、家庭に返すということが一番いいことだから気にしなくていいと言われ、気が楽になった。都合が悪い時に預けて、都合のいい時は自分で（家庭で）見られるという安心感があった。

「良かったね、昨日はお休みできて」と言ってくれた。それがありがたかった。

(3) 保育園からの間接的影響（保育を受けている子どもからの影響）

自分の友だちを作ってもらったのでありがたい。子どもを通して、友だちができ、世界が広がった。子どもを含めて、家族でつきあえる友だちができてよかった。

<子ども調査の結果について>

仕事と子育てについての認知（①②の結果）

小さくても、子どもは子どもなりに理解していた。母が働くために、僕はここに来ていて、母が帰ってくるまでここにいるということをちゃんと理解できていたと思う。朝から晩までお母さんといたら、それが当たり前になる。保育園に行っていた子は、他の世界を知らないからこれが当たり前なのだろう。

自分も実家が商売じゃなくて、もっと金持ちだったら専業主婦になってみたかった・・・と思うが、自分はルーズな性格なので、仕事に行くというめりはりがあることで生活のリズムを保っている。自分はこの生活をするしかなかった。それが子どもにとって、悪かったという気はしていない。

父一人で働き、母一人で子育てするのは間違っていると思う。母も働く気があれば、必要があれば働くし、父も子育てをする。

保育についての一般的意識（③④の結果）

自分がしていない経験は子どもにさせられないのではないか。

自分が経験して問題がなければ、子どもにさせてもこうなるということが想像できるが、行っていない子には未知の世界なのでこういう結果になると思う。保育園でも先生の質や愛情のかけ方によって差は出てくると思う。愛情を持って育ててくれる保育園や先生に巡りあえばおのずといい結果があらわれる。

親が子に愛情を持つのは当たり前で、他人や祖父母、いろんな人から愛されることも大切。子どもなりに愛情のない先生はわかる。サインを出すと思う。行きたくない、ここから先には進まないだとか、子どもの表情を見ていれば分かると思う。

今でも〇〇先生はこうだった、というような話を3人で話したりしている。先生も話せばどういう先生かわかる。

小さい時から預けても、相談できる先生がいたり、何かあれば園長に話せるような保育園であれば安心できる。

この結果を見ると、小さい時から行った子は悪い印象はないようだ。幼稚園が低いのは未知の世界だということだと思う。

C：子ども（女子・中学3年生、長女、保育経験：1歳8ヶ月より）、保護者（母親、38歳、結婚後退職し、出産後再就職、保育園経験なし）

<C子ども>

1. (1)自分の通った保育園について、今どう思っているか。

いい保育園だと思う。先生がすごく優しくて、わがままも数えきれないくらい聞いてくれた（先生全員）。

「親と離される場所」みたいだった。ずっとつらかった。卒園できるときはうれしかった。

保育園で友達と遊んでいるときは忘れていたけど、送り迎えのときはとてもつらかった。4歳のとき、泣いてお母さんを見送っていたのを覚えている。

小学校ではつらくなかった。今振り返ってみると、なんで（保育園のときは）あんなにつらかったんだろうと思う。学童でも同じ保育園だったので、遅くまでいた。7時頃まで。迎えに来てくれるとうれしかった。

(2)乳幼児期から保育を受けたことについてどう思っているか。

人見知りしなくなっただけ、いいと思う。人とふれあう機会が多かった。先生・友達など。

（保育園時代の）友達がたくさんいる。今も一人いる。小学校でも保育園の友達と一緒に学童にいた。小学校の時に、保育を受けたことは特に考えたりはしなかった。お母さんが働いているのは当たり前だったから。

2. 保育の影響について

(1)親子が離れて過ごすことについて、保育園に行っていた頃は どう思っていたか。

（保育園の頃）最悪。

（今は）変だとは全然思っていない。

現在の自分に影響を与えたと思うか？

そんなになんかと思う。意識していないところではあるかもしれないけど。

友達と遊んで、いつのまにか寂しさを忘れた。

別れるときにお母さんと握手をする習慣があったが、それで「お母さんの手（に最後に触れた手）」だから（その後遊んでいるときなどに）ものが触れなかった。

砂遊びをすると、その砂を（お母さんと握手した手で触った砂なので）ポケットに入れたりしていたのを思い出した。（質：それはいつ頃？）3~4歳。今思うと「きもい」けど。

日中友達と遊んでいるときに、途中でふと思いついたりしていた。「お迎え早くこないかな」と思った。

遅いときには少し不安になったけど、先生がたくさんいたから、あまり気にならなかった。ぬり絵などをしながら待っていた。

お母さんがお迎えにくると、駆け寄って抱擁してから荷物をまとめて帰っていった。ごくたまに遊びが楽しくて「もうきちゃった」と思っていた。ある年齢まではすごく悲しかった（という）断片的な記憶が残っている。

（対処について）特になんか。意識してどうこうすることはなかった。

②保育園からの影響、思い出

ものを食べるときは口を閉じなくてはならない、順番を守るなどのルールや規則を身につけた。

みんな自分のことしか考えてなかったからすごかったと思う。

リーダー格のMちゃん、超矛盾してる子だった。数回泣かされた。「嘘ついたらだめ」と自分でいいながら嘘をつくので、指摘すると噛まれた。よく噛む子だった。

そこからはじめに発展しない（Mちゃんも他の子も両方とも）のがちびっこだと思う。

Mちゃんは、上下関係というよりは目立つ子だった。天然パーマでみそそばだった。先生がみほちゃんにどう対応していたかは覚えていない。

その出来事の現在のあなたへの影響

（自分は）矛盾しないように頑張ろうと思った。

(3)保育者の印象

前歯が抜けたときにみそ汁と一緒に飲んでしまっただけ、それを先生に言ったら、「その歯はとけて骨になるんだよ」と言われて大丈夫だと思

った。すごく先生のことを信じていたと思う。

一時期、保育士さんになりたかった。先生みたいになりたかった。

担任の先生（3歳頃）の印象が強い。ずっと一緒にいたような気がする。（クラスがかわっても）他のクラスというイメージはなかった。優しくて、面倒見の手際がよかった。おままごとをやっていると、むこうのこともちゃんと見ている。苦手な先生はいなかった。

女の子がいっぱいいて、手先が器用になった。折り紙とか。今でも何かを作るのは好き。

犬が死んだことがあって、みんなすごく沈んだ。

<子ども調査の結果について>

仕事と子育てについての認知（①②の結果）

* 三歳児神話の説明をしたときに、「えーっ」という反応

家にお母さんがいる人は、その時はうらやましかったけど、グラフのようになっているのは、小さい頃からお母さんが働いている子は「そういうのが当たり前」になっていると思うし、自分もそういう伝統的な役割観みたいのはないと思う。

自分もたぶん働くと思う。夫になる人にもちゃんと面倒をみてほしいと思う。まだ想像つかないけど。（自分の）お父さんもよく見てくれた。お母さんの方がよかったけど。

②「伝統的役割観」を否定する回答

保育についての一般的意識（③④の結果）

小さい頃から保育所で育てられるのはいいと思う。

おばあちゃんとかに預けられるよりは、気を遣わなくていいし、お母さんは楽し、私も楽しい。

この結果は「当たり前」だと思ふし、幼稚園もいいとは思ふけど、保育所のことをわかっていないというか、知らないと思う。

0歳はちょっとお母さんには休んでもらって、母乳で育ててほしい。自分も1~3歳で保育

所に預けたい。

親以外の人に育てられたという感覚はない。

「（保育所に）行っていた」という感じで、知らない間に教えられてたという感じはするけど。

<C保護者>

1. (1)お子さんが通った保育園について、今どう思っているか。

預けた頃は他の母親よりも若めだった。育児も不安な時。ベテラン保育士もいる。園長もよい。夫も通った保育園ということで、前評判はよかった。

入園前： 専業主婦の時、団地の一角に住んでいた。親子で孤立していた。親と離れて子が過ごすということが特別のこのようだった。

入園直後： 子どもの方は、環境が変わって、預け始めた頃は泣いていた。私の目の中にある間は泣いていた。先生からは、離れている時は泣いていないとは聞いていたが、預けて働くということについて、これで良かったかという思いと、後ろめたさは感じていた。

しかし、親子でくっついている時の方がつらかった。社会から隔絶されている気分でした。それで、仕事を探して、決めたので、子どもを預けて働くことについてはふっきれていた。

卒園の頃： 保育園では良くしていただいた。感謝の気持ち。

子どもを育ててもらったと思ったが、自分も育ててもらったと思う。卒園式の時、自分も卒園するような気持ちだった。

結婚当初は、「自分だけ良ければ」という個人主義な考え方だったが、協調性がもてるようになった。何かにつけて行事を企画してくれる保育園、生活のことから、相談に乗ってもらったり、お便りなどから子どものことの報告を受けた。

親自身の保育経験や親がどのように育てられたかということに関連しているか？

母は専業主婦で、父はまじめなサラリーマン

だった。母親は家の中では専業主婦で、普通に育ててもらった。それなりに地域の活動や内職はしていたが、今、私がしているような社会との関わりはない人だった。そういう母親を見て、そうなるとは思っていなかった。一方、父が厳格な人で、早く家を出たかった。親は尊敬すべきだと思っはいるが、自分にとっては反面教師という面もあった。

特に、父が「女だから」「女のくせに」というようなことを母に対してよく言っていたので、疑問に思うことがあった。自分は自分で道を探せばいいと思っていた。

(2)乳幼児期からの保育について、今どう思っているか。

子どもは泣き虫だった。母親と離れたくないという気持ちだったのだろう。大丈夫かと心配はしていた。引っ込み思案なので、友だちができないのではないかと心配もした。

何歳の頃か、保育参観の時に「消極的で大丈夫ですか」と先生に聞いたら、意外にも「積極的」という返事だった。親の思う「Yちゃん」と園での「Yちゃん」像はちがうのだと思った。客観的に見てくれる人がいることで、自分は一面でしか見ていなかった、いろいろな面があるということを学んだ。

卒園の頃：よく普通にここまで育ててくれたと思った。親が働いている子どもは偏りがあると言われる。専業主婦の方と同じように、子どもを育てることができた。

保育園の影響を80%は受けたと思う。小さな頼りない子が頼りがいのある子になっていく。それは、鍛錬や励ましがあったからだと思う。通った保育園の保育理念に、皆で協力しあいながら、お互いに助け合いながら育てていこうね、ということがあって、たくましさ、協調性を身につけることができた。孤立しないで生きていくことのできる子に育った。

働き始めようと思ったのは、親子の「くっつきすぎ」の解消だった。自分にはやるべきこと

があると思っていた。働く時は働く（働く時は、家のことは忘れる）。子どもと一緒に過ごす時は過ごすというように、時間の切り分けができるように慣れてきた。

子どもは保育園がしっかり育ててくれているという安心感をもてた。実家が近いことから、いざという時には助けてもらえるという安心感もあった。

2. 保育の影響について

(1)親子が離れて過ごすことについて、子どもが保育園に通っていた頃、親としてどう思っていたか。

子どもの今の性格、行動や性格の基礎、保育園でできた。自立心が芽生えた。

他の子どもと比べてみると、自立心や行動力が身につけているように思える。親子が離れて過ごしてきたことの影響だと思う。

＜親子が離れて過ごしたこと 補足質問＞（入園した頃に自分の目に映る子どもはいつも泣いていたと言っているが、そのことの影響があると思うか質問）

ものへのこだわりが強い。バスタオルがはなせない。引き裂いても同じものでないとダメ。ものに固執する、決めたら動かないとこだわりがある。

親の意見も聞くが、のめり込むところもある。そのことがその影響かどうかはわからないが、そうかもしれない。

(2)保育園からの直接的影響（あなた自身が保育園から受けた影響）

講演会活動によく参加するように心がけていた。預けている親とも輪がもてるようになって、気持ちが楽になった。相談もできた。

(3)保育園からの間接的影響（保育を受けている子どもからの影響）

子どもと一緒に育っているという感覚だった。保育園での様子を話してくれたり、うれしかったことを聞くことが、励みになったり、考えさせられたりした。

<子ども調査の結果について>

仕事と子育てについての認知 (①②の結果)

女性の生き方がさまざまになってきていることを表していると思う。こうでなければならぬというものはない。働きたいのなら働く、家庭にいるなど、チョイスできる

(被験者は調査結果として示しているものを母親の回答と勘違いして、解釈しようとしているので、途中で修正したが、その後も母親の就労は母親の回答と勘違いしたまま回答)。

自分も試してみたいという気持ちもあった。新しい気持ちにも挑戦してみたい。社会一般的に通っている考え方の通り、多様化してきている。いろいろな考え方があって当然。その人、その人の状況に応じてやっていくのであって、絶対にこうということは言えない。

保育についての一般的意識 (③④の結果)

上の子(対象児)の時は専業主婦だったが、下の子は育休をとった。

1才くらいまでは、子育ての楽しみも味わった方がいいと思う。もし育休がない職場だったら、産休後に復帰したと思う。

母乳で育てたので、1年の育休は必然的なことだった。1年は休んで良かったと思っている。

専業主婦には専業主婦のプライドがあると思う。守っていかないといけないことがあるのだろう。

D：子ども(男子・高校1年生、長男、保育経験：0歳8ヶ月より)、保護者(父親、45歳、母親の就労、本児6ヶ月より就職、保育園経験なし)

<D子ども>

1. (1)自分の通った保育園について、今どう思っているか。

先生とも友達とも仲が良かった。

親が帰りが遅かったので、保育園で夕食を食べたりしていた。

楽しかった。あの時が一番自由だった。小学校の時、友達に会いたいと思った。

(2)乳幼児期から保育を受けたことについてどう思っているか。

たいして変わらない。2歳からでも6ヶ月からでもほとんど変わらない。前からずっと(そう思っている)、特に変化なし。

2. 保育の影響について

①親子が離れて過ごすことについて、保育園に行っていた頃は どう思っていたか。

毎日保育園が終わるとおじいちゃん、おばあちゃんの家に行っていた。

毎週休みにはお父さんが色々なところにつれていってくれていたの、別にさびしいとは思わなかった。

自分にとっては、それがふつう。家に帰って親がいるのは不思議。「さびしい?」とか聞かれたこともない(から普通だと思っていた)。

小さい頃はお父さんが休みにどこにでも連れて行ってくれたから、他の人と特に変わったところはないと思う。

父母のかわりに面倒をみってくれる人がいっぱいいたから(寂しくなかった)。おじいちゃん、おばあちゃん、保育園の園長さんなど。

現在の自分に影響を与えたと思うか?

さびしいということはなかった。中学生になるとかえって楽なときもあった。

(2)保育園からの影響、思い出

保育園に泊まったことが一番楽しい思い出。

みんなで銭湯に行って、遊んで、そのまま寝た。

その出来事の現在のあなたへの影響

友達と遊ぶことが楽しいと思うのはそういうことがあったから。

(3)保育者の印象

園長先生がすごく優しく、ごはんを食べさせてくれたりした。他の先生も、自分に対してだけということではなかったけど、ずっと一緒にいてくれた。

保育園に他にはだれもいなくなっても、若い先生が二人でずっと一緒にいてくれた。そのときは、早く帰ってきてほしい、顔が見たい、不

安だと思っていた。お母さんが迎えに来て一緒に手をつないで帰るのがうれしかった。

友達が手を貸してほしいときは貸してあげる。自分が昔うれしかったから。

<子ども調査の結果について>

仕事と子育てについての認知 (①②の結果)

別に、人それぞれだと思う。母親の人が自分で仕事したいと思えばそれでいいと思うし。

男の人は仕事を中心にして、女の人は仕事もしながら子どもも中心して、大変だと思うけど、僕にとってはそれが一番いいと思う。

この調査結果は自分の考えと一致している。

保育についての一般的意識 (③④の結果)

別に何歳から通ったって、自分はそれでいいと思う。自由に決めればいい。

0歳から通ったって、悪い子になるとか、そういうふうには思わない。変わらないと思う。

調査結果については、自分がしてきたことを否定したくはないからではないのか。自分もこの結果のとおりだと思う。

<D保護者>

1. (1)お子さんが通った保育園について、今どう思っているか。

園長先生の家族と個人的な知り合いという他の保護者とは違う特殊な関係にあったため、色々な形で暖かく子ども達を預かってもらった。私はある意味で優遇していただいたと思っているが、保育園側はそれを優遇視していたかどうかはわからない。以前から自営業などの仕事の不規則な家庭の子どもを数多く預かってきていると聞いているので、自分達だけが特殊なケースではないとも考えるが。保育時間など、融通をきかせていただいた。

保育園について、通園中から卒園後にかけて見方が変わったということはない。

入園前：園について何も知らなかった。どういう園かよく知らなかった。知り合いが園を経営している、ということは知っていた、というくらい。

入園直後：家族ぐるみでの保育、家族経営であることに加えて、先生方もアットホームな感じで一丸となって保育なさっていた。

卒園したころ：生後6ヵ月から、長期間の成長をみていただいた。

親自身の保育経験や親にどのように育てられたかということに関連しているか？

親が商売をしており、自分自身はミッション系の幼稚園に2年間通っていた。特に感じたり、比較したりしたことはない。

(2)乳幼児期からの保育について、今どう思っているか。

特別な感情はない。共稼ぎのため、単純に必要なということ、しかない。

預けたことによって、他人とのコミュニケーション、感受性が養われたと思う。(友達との関係、おじいちゃん、おばあちゃんとかかわりなどにおいて。)

経験がないので、3歳頃まで家庭で保育した場合と比較することはできないが、通常の幼稚園より長時間たくさんの友達、同年代の子どもといるので、より多くのコミュニケーションがとれたと思う。

保育園は長時間だから、それらが養われたと思う。

入学前に引っ越ししたため、小学校は周りは知らない人ばかりの環境だったが、とけ込めた。保育園のおかげだと思う。最初は心配していた。他の子は皆地域の保育園からの子どもで、うちの子一人だけ横のつながりのない人間、全く転向してきたに等しいような状態で入学したが、スムーズに受け入れて仲良くできた。

2. 保育の影響について

(1)親子が離れて過ごすことについて、子どもが保育園に通っていた頃、親としてどう思っていたか。

当初は、親が子離れしていなかった。小さい子を預けるといふ抵抗感が父母共にあった。しかし預けた結果、抵抗感が低くなった。延長保

育の時間以上も、申し訳ないという気持ちを特に感じさせることなく快く預かってもらった。保育園が閉って先生方が帰ってしまったとしても隣の自宅の方で預かってもらった。そういうこともあって安心して預けられた。

今は感謝の気持ち。その後もよい関係を持っている。良い思い出がたくさんある。保育を受けることによって親子が離れて過ごしたことは、子どもの発達に影響を与えたと思うか？

わからないが、親としてもっとかかわる時間をもってあげたかった。あげてなかったことで影響が出てきたわけではないが、もっと多くの事を親から与えてあげる時間があつたらよかつたかと思う。子どものことで何か（心配なことが）あつたからではなく、（単純に）時間が少なかったからということで、そういうふうを感じることはある。

親子が離れて過ごした影響が子どもにあつたと感じたことはない。

(2) 保育園からの直接的影響（あなた自身が保育園から受けた影響）

具体的にはないが、改めて考えると、（龍雲寺だからということはないが）子どもに対する優しさ、子どもに接する優しさをもしかしたら学んだかもしれない。もともと自分自身、子どもは好きな方だとは思いますが、そういう優しさを先生方、保育に携わっている方々から学んだような気がする。

(3) 保育園からの間接的影響（保育を受けている子どもからの影響）

特にない。

<子ども調査の結果について>

仕事と子育てについての認知（①②の結果）

経済的理由がまず先にある。共稼ぎであれば預けるしか仕方がない。預けることによって子どもと接する時間が少なくなっても仕方がない。本当は自分の子どもと一緒にいることが良いことだと思うが、仕事だから仕方がないと思

うのではなく、仕事で預けているからそれはそれでという考え方が逆に結果に表れているのではないかと思う。性役割観というよりも、生活の状況からそれが反映されているのではないか。

自分自身は三歳児神話に関して、こうでなければいけないというのはない。人それぞれの環境によって、いろいろな考えがあると思う。親といる時間が少ないから、人に預けたから、子どもに悪い影響があるとは思わない。女性が家において子育てというのがいいともあまり思わないが、全くというわけではない。

質問に答えながら上の子の事を思い出すと同時に、下の子（小学2年、生後4週から保育園）のことについて、現在進行形で考える。土曜、日曜に親がいないという心苦しきがある。下の子はおばあちゃんのところで預かってもらっている。

保育についての一般的意識（③④の結果）

経験知だと思う。幼稚園の子どもは、経験がないからわからない。保育園の子どもは、経験した感覚として、保育園が嫌ではなかった、ということ。母の就労が低年齢保育の肯定否定に関係があるかはわからない。

0歳から保育園に預けることは決して良いとは思わない。個人的には、長時間のスキンシップなどを考えると、0～1歳くらい（1歳か2歳かはわからないが）は母親と一緒にいた方がよいのでは、と思う。0歳から保育園に通わせることは否定しないが、特によいことだとは思わない。

根本的に、子どもはまず家庭、親の影響を受ける。幼稚園や保育園の影響を言うのは、親の逃げだと思う。子どもに一番影響を与えるのは親でしかない。接する時間が短くても、ちゃんと接してあげることが子どもの成長や性格に関わっていくのではないか。3歳まで親元においても、親の考え方が違えば子どもも変わってくる（例えば虐待を受けるなど）。三歳児神話とい

うのを、幼稚園、保育園に預けることを基準にするのは違うと思う。3歳までに親がどうい影響を子どもに与えたかというのが三歳児神話というのならわかるが。親の就労、預ける一預けないということではなく、3歳までに親が子どもに何をしてあげられたかということ。

些細な親の一言が子どもに与える影響はいつになっても大きいと思う。自分も二十歳になってから母親に言われたことが良い教訓になっている。親は子どもに責任を持つべきだし、影響も強いと思っている。

E：子ども（男子・高校3年生、長男、保育経験：0歳（産休明け）より）、保護者（父親、41歳、母親の就労、産休以外就労継続、保育園経験なし）

<E子ども>

1. (1)自分の通った保育園について、今どう思っているか。

楽しいことしか覚えていない。友達と遊ぶのが楽しかった。

寂しいとかは特になかった。

(2)乳幼児期から保育を受けたことについてどう思っているか。

何もないです。

2. 保育の影響について

(1)親子が離れて過ごすことについて、保育園に行っていた頃は どう思っていたか。今はどうか。

特にないです。

現在の自分に影響を与えたと思うか？

あまりない。

どうして寂しくなかったのか？

楽しかったから。友達がいたから。

(2)保育園からの影響、思い出

ドッジボール。みんなでやった。先生は一緒にやらなかったと思う。同じ年の子と。保育園の後半（年中～年長くらい）ずっとやった。どういところが楽しかったかわからんけど、楽しかった。毎日楽しみにしていたというわけでは

ない。

その出来事の現在のあなたへの影響

ないです。たぶん。

球技が好きなのは今もそう。野球をやっていた。一人じゃないから楽しい。

(3)保育者の印象

名前は覚えていないが、顔は覚えている。印象はあまりない。怒られたことはあるけど、あまり多くない。

（遊んで楽しかったとか？）あまりない。覚えていない。

保育者が今の自分に影響を与えているということもない。

（保育者のイメージは？）若い人ばかり。人それぞれなので、特に怖いというイメージはない。自分の先生は、怒ったら怖い。普段は普通、というかやさしかった。先生からしてもらったことは覚えていない。先生のことより、友達と遊んだこと、覚えている。

<子ども調査の結果について>

仕事と子育てについての認知（①②の結果）

育ち方によって、考えが違うと思う。自分は0歳から保育所。（結果は）自分の考えと同じ。どうしてそう思うかはわからないが。

（他の考え方を持つ人たちについて）それはそれでいい。自分が育った家庭とか（によって違う）。

保育についての一般的意識（③④の結果）

結果は、自分の考えにあてはまっている。

自分が子どもを通わせるなら、何歳からでもいい。

家によって、両方働かなければ食べていけないこともあるし、どっちでもいい。将来、奥さんが働いても働かなくても、どっちでもいい。

保育園に行くと、友達を作りやすくなると思う。

<E保護者>

1. (1)お子さんが通った保育園について、今どう思っているか。

小さい頃から色々な人と接して、社交的で人

見知りしない子になったのでよかった。

この保育園に入ったからかどうかはわからないが、優しい（と思う）。

保育園についてはよくわからない。行事にもあまり参加していないし。

小さいときはわからなかった。中学生ぐらいから（そう思うようになった）。

保育園を選んだ理由は、近いから。入園直後・卒園の頃ともに特に（思いは）ない。

親自身の保育経験や親がどのように育てられたかということに関連しているか？

5歳の頃1年間保育園に行っていた。自分の子育てとその経験は特に関係はない。

(2)乳幼児期からの保育について、今どう思っているか。

自分はあまり保育園と関わっていないので、よくわからない。

2. 保育の影響について

(1)親子が離れて過ごすことについて、子どもが保育園に通っていた頃、親としてどう思っていたか。

多少さびしい思いをさせたかなと思う。

ずいぶん前なのであまり覚えていない

（今は）それもありがたかったかなと思う。0歳児で入れるうんぬんは別として、友達もいたし、いいこともあったらと思う。

・（理由は？）小学校の頃、保育園と一緒にいった子は仲が良くて、よく遊んでいたから。

保育を受けることによって親子が離れて過ごしたことは、子どもの発達に影響を与えたと思うか？

わからない…どうなんでしょう。

今の子どもの性格が、0歳児から入れたからそうになったのか、というのもよくわからない。

(2)保育園からの直接的影響（あなた自身が保育園から受けた影響）

よくわからない。

(3)保育園からの間接的影響（保育を受けている子どもからの影響）

園での写真を楽しく見させてもらって、「みんなと仲良くやっているんだな」と思った。

そのことに対して、保育園に当時何か思ったというのは特にはない。覚えていない

<子ども調査の結果について>

仕事と子育てについての認知（①②の結果）

幼稚園に行っていた子、専業主婦の子は、それが当たり前かなと思っていたし、0歳から保育所に行っていた子もそれが当たり前かなと思っていたらから、当然のことだと思う。

自分自身は（性役割観について）全くそう思っていない。お互いが協力しあって子育てしていけばいいと思う。三歳児神話についてもそう思わない。

女性も仕事が好きならすればいい。保育園に預けたいならそうすればいい。保育園で楽しいことも経験できるし、それぞれいいこともあると思う。

保育についての一般的意識（③④の結果）

小さい頃から通っていた子は通って楽しかったとか、いい思い出があるから、保育に賛成するのだと思う。

幼稚園の方は自分が経験していないから不安もあるだろうし、お母さんと一緒にいたのがよかったからだと思う。

（どちらも）自分の経験に基づいて、しかもそれがよかったからこういう結果になったのだと思う。

実際に通っていた子がいいと言うのだからいいのだろう。

小さいときから色々な人に接するのはいいことだと思う。

結果と考察

(1)子ども

乳児保育の時期から保育所に通っていた経験を持つ子どもにとって、当時の経験は記憶の彼方にある部分が多いことに留意する必要があるが、しかし、生活の基盤となった保育園におけ

る連続性の中でそれらが深く重なり合っている。したがってその語り・叙述は、小学校就学前までの保育経験・体験の全体像を示しており、0, 1, 2歳時期の保育経験と切り離されたものとして判断することはできない。また、その後の就学以降の時期のさまざまな体験を踏まえた意識化されたものであることにも留意する必要がある。

①聞き取り調査対象者の概要：

5名の内訳は、男子3名、女子2名。年齢は15歳から18歳まで。保育開始時期は生後6か月以降から1歳8か月以降までと、いわゆる乳児保育の時期から保育経験を持っている。

②主要な考慮・考察点

親との分離経験に関する感情として、男子は寂しさに関する語り・叙述がみられなかった。一方、女子で1名寂しさを強調している面が強くみられた。その寂しさ克服のエピソードは、分離不安解消のありようとして参考になる。総じて、寂しさを超える保育者や友達との関係、親との分離や再会時のかかわりによる解決などが、保育経験の中で重要な意味をもっていることが理解される。

とりわけ乳幼児期における他の仲間や親以外の園関係者とのかかわりがその後の生活、発達に及ぼす影響を読みとることができる。とくに、社会性、交流性、ルール・規則遵守性、思いやり・互惠性等の育ちにかかわっている。

おおむね肯定的な語り・叙述が多い中で、男児1名が保育所経験・体験についてとくに全体的に記憶が薄い中で、マイナス感情を伴う経験について比較的鮮明に叙述している。とくに幼児期における保育者の専門性、そのなかでも子どもの尊重・権利の配慮等についてかかわるものとして参考になる。

調査結果①②及び③④については、自分もその通りに考えるという確認がなされ、この時期における価値観が明確に意識化されていること

が、実証される結果であった。中でも、1名の女子が三歳児神話が存在することに奇異を感じた反応がみられたことは特徴的である。総じて、保育所経験、幼稚園経験の相違がこのような結果をもたらしているのは当然であるという認識が共通にみられる。さらにこのような聞き取り調査をすすめていくなれば、思春期以降の頃におけるこのような意識形成と過去の生活体験・人間関係の幅との関連性について、もう少し深く検討することができるかもしれない。

その際考慮しておくべきことは、保育所における経験・体験の後の生活体験・経験との関連性であるが、それとともに冒頭にふれた点、とくに記憶の彼方にある部分が多く含まれるにもかかわらず、生活の基盤となった保育園における連続性の中でそれらが深く重なり合っていることについて、検討、検証が必要であると考えられる。

(2)保護者

保護者への聞き取りは、本来乳児期から保育所に通っていた時期に養育していた母親、父親双方から内容を得ることが求められる。しかし、諸種の事情により母親または父親のひとりから聞き取ることとなった。今回の調査では、子どもが保育所に通っていた時期から10数年を経ている。子どもほどではなくとも、その間の初体験・経験はその語り・叙述に影響を及ぼす。また、重要な点は子どもを早期から保育所に通わせたことへの総合的認識、意味づけである。

①聞き取り調査対象者の概要：

5名の内訳は、母親3名、父親2名、年齢は38歳から45歳まで。子どもとのペアで見ると、母親と女兒2組、父親と男児2組、母親と男児1組である。

②主要な考慮・考察点

この聞き取り調査に協力していただいた保護者にとって、保育所についての卒園後今日に至

るまでの感想は、肯定的であり、本当に助けられたあるいは保育所に通わせることはよいことと確信した等の見解が多いのは当然かもしれない。しかし、入園直後から安心感があつた、園から温かく見守られた、丁寧に応じてくれた、厳しくしっかりと応じてくれてありがたかった、保育園からいっぱい教えられた、客観的にみてくれていた、等々の語りは、保育所が子どもとともに保護者に及ぼす影響の大きさをあらためて示唆している。

子どもを早期から保育所に通わせたことについては、後ろめたさ、抵抗感、寂しく思っているだろう等の気持ちは大なり小なりすべての保護者にみられた。1人の父親は親としてもっとかかわる時間をもってあげたかったと語っている。この感情とともに、仲のよい子と楽しく過ごしている姿、子どもがにこにここと楽しんでる姿に救われたり、安心した体験、また子どもへの聞き取り調査とも共通して参考になる点である。

早期から保育所に通わせた親として、そのマイナスの影響を指摘する側面は予測した以上に少なく、1人の母親は「早くから預けたから・・・」ということはないと自信を持って思っていたと語り、別の母親は、子どもといつも一緒だったときの辛い思いを語っている。

したがって、総じて乳幼児期からの保育に対しては肯定的であり、子どもの育ちへの効果（コミュニケーション力、感受性、自立心、行動力、子どもの今の行動・性格の基礎になっている等々）とともに、親が育てられた、親も育ったという語りがみられた。

調査結果①②及び③④については、子どもへの聞き取り結果と同様に当然のこととして受けとめ、また自らの考え方に確信を持っている。乳幼児期のそれぞれの経験の相違が、その後の意識や態度、行動に大きい影響を及ぼすという経験知の重視である。

また、乳児保育を含む子育て経験を積んだ保護者の考え方の中に、これまでの我々の研究の

結論の一つである保育の質、つまり家庭におけるケアの質、保育所における保育の質の重要性に関する意見が語られていたことも指摘しておかなければならない（三歳児神話を幼稚園、保育所に預けることに基準をおくのではなく、3歳までに親がどのような影響を与えたかという意味で受けとめる。保育所での保育者の質や愛情のかけ方によって差は出てくる）。

(3)まとめ

第2年度の研究結果が示唆した論点、つまり乳幼児における幼稚園、保育所経験の相違が子どもの思春期以降の価値観等に影響を及ぼしているのではないかという点について、今回の聞き取り調査では、それを経験知として至極当然のように立証する子ども、保護者の対象者の方々の声は、印象的である。このことは、一般的に、社会全体に保育所をよく知りその内容にかかわる環境が強まることにより、この意識の相違に変化がもたらされるという結論を導きそうであるが、しかしまだ検討すべきことは多い。子ども、保護者ともにみられる分離体験に対するこだわりやマイナス感情と、その対応・克服に関する語り・叙述も今後検討すべき課題をいくつか残した。そのためには、今回の全体調査とこの聞き取り調査のような手法を通じてさらにアプローチしなければならない。

また、これらに深く関連するが、アタッチメント理論の進展とその実際の適用については、単に早期からの保育に焦点を当てるだけではなく、今回調査対象とはしなかった小学校就学時期以降に母親が就労した多くの事例も考慮して、多面的にすすめていく必要があることも示唆している。

これらに関しては、さらなる総合調査を進めるとともに、このような聞き取り調査の手法を高め、多くの聞き取り事例から学んでいく必要がある。

夜間に及ぶ長時間保育に関する5年間追跡実証研究 －5年後の発達に関連する要因に焦点をあてて－

分担研究者 安梅勅江（浜松医科大学医学部）

研究協力者 田中裕、酒井初江、庄司ときえ、宮崎勝宣（浜松医科大学医学部）

要 旨

目的：次世代育成支援に向けた子育て支援として、夜間に及ぶ長時間保育へのニーズは極めて高く、その子どもの発達に及ぼす影響の評価は喫緊の課題である。本研究は、5年にわたる追跡研究に基づき、夜間に及ぶ長時間保育の子どもの発達への影響を明らかにすることを目的とした。

対象及び方法：1998年、2003年に全国の認可保育園の子どもと保護者に対し実施したアンケート調査で、紙面により同意協力が得られた1998年保護者2,768名、子ども3,370名（回収率84.7%）、2003年保護者2,743名、子ども3,626名（回収率78.0%）を対象とした。このうち、1998年調査、2003年調査の双方に回答した保護者と子どもの組み合わせ、どちらかの調査が欠損している組を除外した185組を分析対象とした。なお、1998年時点の有効回答と分析対象の間に、子どもの年齢と性別について分布に差異のないことを確認した。

5年後の子どもの発達に対する複合的な要因を明らかにするため、保育時間を独立変数とし、従属変数には5年後の子どもの発達状態と適応状態、調整変数には育児環境、基準年の子どもの発達状態、適応状態、性別、年齢を投入し、多重ロジスティック回帰分析でステップワイズ法を用いて分析した。

結果と考察：5年後の子どもの発達に対する各要因の複合的な関連を明らかにするために、性別、年齢、育児環境、子どもの状態の全ての項目を統制要因として投入した多重ロジスティック回帰分析により、発達リスクに対するオッズ比を検討した。

「微細運動」については育児相談者がいない場合いる場合の115.7倍、「対人技術」、「理解」については家族と一緒に食事をする機会がめったにない場合はある場合の各々70倍、43.7倍、5年後の発達リスクが有意に高くなっていた。いずれも〈保育利用時間〉については、有意な関連は認められなかった。

5年後の子どもの発達に影響を与える要因の複合的な関連分析により、子どもの発達には「保護者へのサポートがあるかどうか」「子どもの発達に見合った適切な動きかけがなされているかどうか」が関連し、〈保育利用時間〉は関連要因として抽出されなかった。

1. 緒言

女性の就労形態や地縁の崩壊等の社会背景の変化、子育てと就労の両立を求める者の増大にともない、長時間保育の充実は強い社会的な要請となっている。平成14年9月に「少子化対策プラスワン」が、15年7月に「次世代育成支援対策推進法」が制定され、保育ニーズが高揚する中、長時間保育の長期的な影響に関する関心が高まっている。

子どもの発達には多様な要因が関与するため、複合的な要因の組み合わせによるダイナミックな予後への影響要因を検討する必要がある¹⁾。追跡研究を用いて、子どもの発達に対する複合要因の影響の強さを比較しながら検討する報告は一般的になっている²⁾。

保育の子どもの発達に及ぼす影響に関するレビュー研究³⁾では、「乳児期あるいは幼児早期からの母親の就労、あるいは保育経験、そして夜間に及ぶ長時間保育という単一のファクターのみを取り上げてその是非論を論じることよりも、家庭や保育サービス、そして地域におけるケアの質そのものこそ、子どもの発達に影響を及ぼすと言うことを、理論的にも、実践的にも、また政策的にも踏まえることが重要である」と結論付けている。

米国では保育の影響を大規模調査で検証するため、国立子どもの健康と人間発達研究所(National Institute of Child Health and Human Development, 以下 NICHD)が中心となり、全米24の病院で1991年に生まれた子ども1,364名について、その後7年間の追跡調査を実施している^{4)~13)}。母親以外の保育の利用(週30時間以上)が、問題行動の発現に差があったとしている²⁾。しかしこの母親以外保育とは、保育園、保育ママ、祖父母や親戚による保育等多様な形態を含み、設定した基準時間は週30時間であり、毎日11時間以上にわたる集団保育の影響を、追跡研究したものは国内外でほとんどみられない。

本研究は、「子育て支援の効果の評価」を目的に1998年に開始されたプロジェクト研究である。米国NICHDのプロジェクトとの比較を意図し、図1のような研究枠組みで検討を継続している。すでに2年後の追跡結果から、保育時間ではなく家庭での育児環境や子育て支援の利用の可能性が子どもの発達に影響することを報告している¹⁴⁾。本研究は、さらに5年後の追跡から、子どもの発達に影響を与える要因について、保育時間、育児環境、子どもの属性等に焦点をあて、長時間保育の影響が他の要因と比較してどの程度なのか科学的な根拠を求めたものである。

Bronfenbrenner¹⁵⁾は子どもを取り巻く環境をシステムとして捉え、環境をミクロ、メゾ、エクソ、マクロの4つの次元別に把握する有効性を提唱している。本研究では、そのシステム理論を応用し子どもの発達にとって必要な育児環境を整理したBradleyら^{16)~19)}の育児環境評価の指標を用いた。

次世代育成支援に向けた子育て支援として、夜間に及ぶ長時間保育へのニーズは極めて高く、その子どもの発達に及ぼす影響の評価は喫緊の課題である。本研究は、5年にわたる追跡研究に基づき、夜間に及ぶ長時間保育の子どもの発達への影響を明らかにすることを目的とした。

2. 研究対象と方法

(1) 研究対象

全国の認可夜間及び併設昼間保育所(全87箇所)にて保護者および園児の担当保育専門職を対象に1998年、2003年に調査を行った。1998年、2003年に全国の認可保育園の子どもと保護者に対し実施したアンケート

調査で、紙面により同意協力が得られた 1998 年保護者 2,768 名、子ども 3,370 名（回収率 84.7%）、2003 年保護者 2,743 名、子ども 3,626 名（回収率 78.0%）を対象とした。このうち、1998 年調査、2003 年調査の双方に回答した保護者と子どもの組み合わせ、どちらかの調査が欠損している組を除外した 185 組を分析対象とした。なお、1998 年時点の有効回答と分析対象の間に、子どもの年齢と性別について分布に差異のないことを確認した。

（2）調査方法

調査方法は、保育を利用する保護者と保育専門職に対する質問紙調査、さらに、そのうち 22 時以降の保育を実施している 79 カ所の保育園への保健・福祉・保育・教育・心理領域の専門調査員複数の訪問による保護者、保育専門職、園長への面接調査、子どもの観察調査を実施した。

本研究では、「保育の特性」として保育時間と入園年齢、「保護者の特性」として育児に対する自信、「家庭環境」として育児環境に関する項目、「インフォーマルサポート」として育児の援助者や相談相手の有無、「子どもの特性」として性別、年齢、きょうだいの有無、発達、体質、保育園への適応、「子どもへの影響」として社会性発達、運動発達、言語発達の項目を取りあげた。

質問紙の内容は、育児環境に関する項目として（保護者による回答）、「人的かかわり」の領域では、1) 子どもと一緒に遊ぶ機会、2) 子どもに本を読み聞かせる機会、3) 子どもと一緒に歌を歌う機会、4) 夫（または、それに代わる人）の育児協力の機会、5) 家族で食事をする機会、「制限や罰の回避」の領域では、6) 子どもの失敗への対応、7) 一週間のうち子どもを叩く頻度、「社会的かかわり」の領域では、8) 子どもと一緒に買い物に行く機会、9) 子どもを公園に連れて行く機会、10) 子ども同伴の知人との交流の機会、「社会的サポート」の領域では、11) 育児支援者の有無、12) 育児相談者の有無、13) 夫（または、それに代わる人）と子どもの話しをする機会、の計 13 項目であった。

子どもの発達状態に関する項目（担当保育専門職による回答）として、運動発達（粗大運動、微細運動）、社会性発達（生活技術、対人技術）、言語発達（コミュニケーション、理解）の 3 領域 6 項目につき、保育園児用発達検査票^(註1)を用いて把握した。なお評価にあたり、研修会を 5 回開催し、各保育所より 2 名以上の保育専門職を対象に、「保育園児用発達検査票」の目的と方法の説明を行なった。さらに、各保育所で参加した保育専門職同士がよく把握している園児 1 人について、その場で実際に評価してもらい、85%以上の一致率を確認した。評価においては、評価マニュアルにて詳しい内容を明記し、不明な点に対応できるよう配慮した。

面接調査の内容は、1) 子どもおよび保護者の現状、2) 保育に対するニーズ、3) 長時間にわたる保育の現状、4) 保育の工夫など、観察調査の内容は、1) 子どもの発達状態、2) 長時間保育における子どもの生活状況、3) 夜間の保育環境の実態などであり、質問紙調査による回答の妥当性の確認を意図した。

（3）分析方法

1) 長時間保育の経験がその後の子どもの発達に及ぼす影響を他の関連要因と比較しながら検討するため、2003 年時点の子どもの発達、適応状態を目的変数に、基準年（1998 年時点）の保育時間（通常保育群、長時間保育群）、育児環境、保護者の育児意識、子どもの保育園への適応状態、発達状態を個別に